



第3号
平成9年12月

編集発行

九頭竜厚生事業団
九頭竜ワークショップ
広報委員会
☎0779-87-3003



今年度の処遇について

九頭竜ワークショップ
所長 五十嵐 閑

今年度もはや半期を過ぎましたが、年度当初にたてた生活目標について改めて確認し合い初心にかえつて職員、入所者の皆さん共々取り組んでいただきたい。

今年度は三点の目標を定めましたが、まず「一声運動の推進」についてですが具体的テーマとして「もう少し明るい一声と気配りを」ということで朝、夕のあいさつの励行をしていただいておりますが、これを更に介護の場面や作業の場面などあらゆる場面での展開をしていただきたいと思います。

次に喫煙の問題について喫煙者は禁煙に対する努力と非喫煙者の健康を害することのないようマナーと両面にわたる努力を求めます。特に職員は入所者の模範となるよう率先して取り組んでいただきたいと思います。

第三に食生活の改善についてカフェテリア方式の施行を端緒として現在、昼食を月曜日から金曜日に亘って実施しておりますが引き続き朝食、夕食にも拡大し家庭料理に近い内容のものを常時提供できるよう努めてゆきたいと考えております。
最後に以上のような生活目標についてその主旨は入所者の皆さんの健康管理であるということを再度、確認し合いながら後半期が充実した日々になるよう努力を期待しております。



一泊研修の思い出

模田 哲三

5月19日、20日、待ちに待った私たちの三年に一度の一泊研修でした。

5月19日の朝9時30分頃ワークをバスで出発して一路石川県加賀市の山代温泉に向かったのです。

道中ガイドさんの説明を聞きながらバス旅行を楽しみました。そして山代温泉ゆのくに天祥に着いたのです。

ホテルで昼食を取り、カラオケをしたり、ラウンジでコーヒーなどを飲み、温泉につかるなどしてそれぞれめいめいに時を過ごして部屋でくつろぐなどして夕食の宴会にのぞんだのです。

私は大きくて広くいろんなコーナーがありびっくりしました。

夕食はごうせいな料理にこれまたびっくりしました。宴会は式典に始まり、郷土芸能の太鼓などを見せて頂き、職員さんのアトラクションを楽しみながら、飲み食いをして最後に所長さんを中心に全員で皆の衆を歌い宴会は盛り上りました。

くつろいだ雰囲気の中、職員とも打ち解けて、楽しい一時をすごすことができました。

その夜はよくねむれました。翌日の20日は、加賀百万石時代村に向かったのです。

あいにくの天候でしたが、奇跡的と思える程の晴れ間がのぞいて、江戸時代にタイムスリップしたような村内を見てまわることができました。加賀市のボランティアの皆さんには、初対面にもかかわらず親身になってお世話いただいたことは研修の一番の思い出となっています。本当にありがとうございました。



一泊研修を振り返って

東井 民恵

九頭竜ワークショップのみんなと5月19日、20日と一泊研修へ行った。泊まりさきの山代温泉ゆのくに天祥へ着いて、私がうれしく思ったことは、大きなお風呂に入り、料理がたくさんあって味が濃いめでおいしかったこと、両親が来てくれて一緒に過ごすことができたことです。

私も本当は、もっと今までのように外出などをしたいのですが、年々体の状態が悪くなり、介助をしてもらうことがすごく自分なりに気を使うので悩んでいる毎日です。でも、これから一泊研修を機会にもっと自分で出来ることは頑張りたいと思っています。

これからも、職員さん達にもお世話をかけますが、よろしくお願ひしたいと思っています。



ゴーッゴーッ、ゴーッ、走行クレーンが重さ一トン近くもある成形金型を吊り上げて工場内をのし歩く、これは九頭竜ワーク自慢の新鋭成形工場の日常的な風景です。

取引先からお預かりしている大切な金型を優しくいたわるよう成形職員は機械の固定版に導き、吸い込まれるようにすんなりと納める。さすが成形マン、もの造りに情熱を傾ける指導員がほつとする一瞬です。

ヨップの授産作業に加わったのは昭和六〇年一月に音響機器メーカーの株式会社テクニ

工場部成形科の紹介

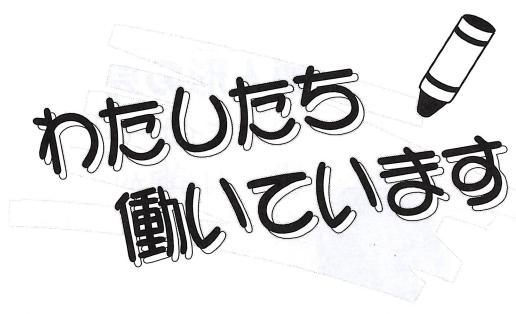
ゴーッゴーッ、ゴーッ、走行クレーンが重さ一トン近くもある成形金型を吊り上げて工場内をのし歩く、これは九頭竜ワーク自慢の新鋭成形工場の日常的な風景です。

機械を揃え名実共に成形工場としての形を整えました。さらに今年三月、大型機（二二〇トン）一台を加え総台数九台とし夜勤職員の充実を行い二四時間稼働を実現しました。

これらの成形機から生れ出てくる製品は、ゲート切りや二次加工、組み立てがされ検査工程を経て決められたケースに整列され施設のトラックで毎日得意先に納入されています。

製品は自動車内装部品、音響部品、日用雑貨、建築資材、電気機器部品等々あらゆる樹脂製品にわたっています。

数学の問題を解くのが趣味と言う朝日さん、水筒をいつ



カフクイ

様の指導により西

独（当時）

アーブル

グ社製の

小型成形

機を導入

したのが

最初であ

ります。

以後、順

次増設を

進め平成

四年に國

械を揃え名実共に成形工場としての形を整えました。さら

に今年三月、大型機（二二〇

トン）一台を加え総台数九台

とし夜勤職員の充実を行い二

四時間稼働を実現しました。

福祉工場部利用者の約六割は何らかの成形品を加工する作業を日課にしています。そういう意味で成形科はワークの中では大変重要な仕事なのです。七人の職員は、機械の世話や金型交換、品質管理そして時々施設行事に参加出来ないこともあります。

これからは、より高度な成形技術を身に付けて入所者の工賃が少しでも増えるように、良い仕事を受注してくれることを、お願いして成形科の紹介とします。

福社工場部利用者の約六割は何らかの成形品を加工する作業を日課にしています。そういう意味で成形科はワークの中では大変重要な仕事なのです。七人の職員は、機械の世話や金型交換、品質管理そして時々施設行事に参加出来ないこともあります。

これからは、より高度な成形技術を身に付けて入所者の工賃が少しでも増えるように、良い仕事を受注してくれるこ

経営管理課長
南 健治



職員 光澤 郁子さん プロフィール

昭和53年の療護施設開所と同時に寮母としてワークショップに就職され途中、工場部縫製科に移られ作業指導員として入所者の技術指導はもちろん自らの縫製技術も高める努力を常に考えておられました。昨年4月からはプラパーティ科の係長として特にどちらかと言うと重度の入所者の作業確保に心つくされて常に前をみておられる態度には感心させられます。得意先に直接交渉され新しい作業の開拓もすすめその交渉力にはベテラン男子職員も脱帽させられること、しばしばです。

感心させられるもう一つのことは人前でも度胸が良いことです。年間行事の夏、冬祭りの司会者候補にいつも名前があがることでも解ると思います。最近ではあまり耳にしませんが以前は、ワークのカラオケ女王と言われるぐらいによくマイクを持って歌っていました。

今後の彼女にお願いしたいことは「思い込んだら一直線」だけでなしに入所者や職員の誰彼となく耳をかたむけて回り、のバランスも少し考えていただきたいと思います。

富田恵美子さん
(重度授産施設)



岐阜県出身で当施設が開所と同時に入所され、現在は工場部のプラパーティ科で、こつこつとマイペースで作業をし年間を通じて出勤率は100%。この記録は誰一人破ることができず、作業のない時などはショッピリ不満顔なんですよ。そんな彼女が休みの時には暑くても寒くてもサービス棟の廊下に一日中立ち、行交う人達に喜怒哀楽を示しながら、時には私たちが「なるほどー」と言うようなユニークなニックネームを自分のお気に入りの人につけ、オリスのようなかわいい瞳をキラキラ輝かせて教えてくれます。

記 生産課 南

記 重度授産施設 岩佐安代子

菊人形の見学

デイサービス利用者 酒井利秀



何と暖かい小春日和か、今日はデイサービスより初めての菊人形、市内各所から老人と障害者が集まつてくる。迷惑を掛けまいと家を出たが途中にトイレや乗り降りに時間がかかり、会場に着いたのが11時頃、入場と同時に、大菊・盆栽菊等を見て廻る。数年ぶりに見られる入賞者の花と名前、私も作った事もある。思い出しながら楽しく先走っていく。ふと気づくと仲間が居ない。すぐに戻ったが皆食事中、またも迷惑をかけた。注意を受けた後全員で大河ドラマの毛利元就流し館を見る。うしろから「人形に菊を着けただけや」の声、仲間で無かったのが幸いだったがこんな人来るな、ドラマの内容と是れを作つて居る人の心も知らない。私は眩き乍ら外に出て、コブシ会の方に車椅子を押して貰つて一回り。妹に本場の包丁約7,000円也一本買って、数人が美女の踊りを見る。楽しかった、職員の皆さん有難う。でも自分もボランティア精神、助け合う心で迷惑だけは掛けまい事を誓いながら無事帰つて来ました。

菊人形 障害越えて 笑顔見る
障害を 一時忘れ 菊人形

「わたしの楽しみ」

老人保健施設入所者 土田ちえ子

私の楽しみはリハビリです。リハビリの先生が、先日あまり厳しかったので、しばらく休んでしまいました。それから、何回か後にリハビリ室に行くと、先生がやさしく迎えて下さり、「またがんばってやって行きましょう」とおっしゃいました。とても感激しました。又、日頃の集団レクリエーションでは、風船バレーやボーリングなど老い先短い私達にとっては本当に充実した毎日を送っております。

先日、仲良くしていた方がやめられしばらく淋しい思いをしましたが、また新しい友人が出来ました。

神様、仏様、

感謝致します。



第2回アートまつり
から喜びと感謝を地域と共に
12月7日(日)

九頭竜ワーキングショップにて
式典 AM11:10~AM11:40
作品展 AM11:10~PM4:30
模擬店 PM12:00~PM4:30
アトラクション PM12:15~PM4:00
閉会 PM4:30
お友達と来てね!!

11月30日に大野で行われた

やまびこコンサートのために



ワークのバンド

“コンカーズ”の練習風景

九頭竜ワーカーショップ

俳遊会定例会作品

平成九年十一月十日

晩秋の街懐かしく去り難し

山下悦子

稜線を茜に染めて秋の暮れ

五十嵐俊夫

母在りて軒に小さき吊し柿

小寺春美

自然薯を掘る指先の丁寧に

木村唯志

石臼に懸崖の菊置かれあり

松浦とし

額縁をはめてもみたき紅葉山

南健治

母親の抱えし子にも赤い羽根

中村昭南

磯釣の人影消えて秋深し

川崎彦則

寒い朝気合いで入れられ友起くる

古井光生

着ぶくれていて人の名をすぐ忘る

荒井微風



神様に
背を向けたくなつたとき

保護者

荒井

勇

<荒井微風(俳遊会講師)>

約二十八年前、「あなた方夫婦なら、障害の子を大事に育てることが出来ると、神様が見込まれて、お宅の子として預けられたんですよ。」

と、したり顔で話しかけてきた人がいる。私達夫婦は、

障害をもつて生まれた次女陽子の体を、両側から浮かすよううに支えて、歩行訓練に明け暮れていた頃だったので、その人にも大いに腹が立つたし、神様にも背を向ける気になつたことを、今だにありありと思い出すことが出来る。

一年の就学猶予ののち、県

外の施設に入所して十二年半、ワーカーショップに入所して十三年、その間に社会から受けた恩、施設から受けた恩、そのほかにも受けた恩の数々、それはいずれも言葉ではなく、行動で語りかけてくるのだから、保護者としても精根を据える気になる。

啓蒙されると感じた何年間、それに応えねばと思った何年間、施設の職員と心を開き合つて、行動を起こせると感じたときの喜び、それが形になつた。

俳句に遊ぶと書いて、「俳遊会」発会してもう六年になる。

会員の構成は、入所者、在宅障害者、ボランティア、職員、保護者である。指導する私が、入所者の親であるということでも、会員も分かつてくれるを感じるらしく、嬉しくなるほど心を開いてくれるし、施設側も大変喜んでくださる。

私自身も施設の恩に対して、少しは報いることが出来るという満足感から、現在は、障害者を家族に持つ境遇を甘んじて受け止めることが、出来ようになつたと思うし、この年令になつてではあるが、少しは強くなれた気がする。

ありました

3月18日

3月誕生会開催。福井南ロータリークラブの皆さんをお迎えいたしました。会員皆様から記念植樹ということで日本庭園に梅の木が寄贈されました。ありがとうございました。

3月11日

元バレー日本代表選手三屋裕子さんが一日所長を任命され入所者に対する励ましや「私のバレー人生」という題で講演をしていただきました。特に、あきらめないでどうか頑張って下さいというチャレンジ精神を持って生活をしていただきたい、私も頑張りますとの言葉を全入所者に託されたように感じました。なお、三屋さんはファンの皆さんから贈られた思い出深い人形の数々を施設の皆さんにと寄贈いただきました。ありがとうございました。

3月8日

入所者自治会選挙があり、会長に小寺春美さん、副会長に山内松男さんと奥村千鶴子さんが選ばれました。



4月7日から4月10日

昨年12月、結婚された水野政人、啓子さんが東京方面へ新婚旅行をしました。滞在中は現地のボランティアのご協力により有意義な旅行となつたとのことです。

4月8日

花まつり並びに4月誕生会を開催いたしました。導師として勝山市西宮寺三崎靈征師をお招きしてお釈迦様の誕生をお祝いするとともに三崎師より自灯明について平易に解説した法話をいただきました。

5月19日から5月20日

三年に一度の一泊研修旅行が開催されました。山代温泉にて総勢330名が一同に会した夕食懇親会は特筆に値すべく盛況のうちに一夜を過ごし、翌日は加賀時代村にて加賀市内のボランティアのご協力を得て江戸情緒を満喫し全員無事施設に戻りました。三年後が楽しみです。

6月21日

総合防災訓練実施

6月19日

6月誕生会を開催しました。笹の葉に包まれた団子を慈しむように賞味しました。

6月



5月24日

5月誕生会を開催しました。春の味覚としてつきたてのよもぎ餅をいただきました。

7月、11月

阪谷小学校の児童の皆さんと、七夕集会や誕生会、奉仕作業などの交歓会を続けさせて頂いております。



7月1日

重度授産施設に荒川裕次さんが入所されました。

7月17日

毎年恒例の海水浴を福井市鷺巣海岸で実施しました。今年1月2日に発生したタンカー重油流出事故による汚染により開催を危惧していましたが地元の皆様をはじめ関係者の懸命の努力で以前と少しも変わらない回復状況を目のあたりにしていつもと違った感動、人と人とのつながりの大切さを改めて考えさせられました。

ワークの畠でいちご狩りを楽しみました。

7月6日

勝山市身体障害者スポーツ大会が市営体育館で開催され在宅障害者との交流を深めました。

7月7日

7月誕生会並びに七夕まつりを開催。誕生会には福井市本郷地区婦人学級の皆さんが遠路お越し下さいまして舞踊や歌謡を披露していました。

毎年、この行事の運営にご協力をいたしている福井市川西地区社会福祉協議会の皆さんにも感謝いたします。



8月2日

改装となったグラウンドで第20回夏まつりが盛大に開催されました。舗装をし広くなったグラウンドでの模擬店、相撲大会、盆踊り、アトラクション、火の祭典など盛り沢山のプログラムを地域の皆さんやボランティアの皆さんとの交流を深めながら楽しみました。

こんな行事が



10月



9月4日

勝山市長が長寿者、米寿者慰問のため来所されました。米寿者は松井まつおさん、湯口さよさん、加藤チヨさん、長寿者は佐々木つなさんでした。

ワークの畑で
いも堀りを
楽しみました。

9月15日

敬老会並びに9月誕生会を開催。アトラクションとして勝山歌謡クラブの方々が慰問に来られました。懐かしい歌の数々に会場から歌声もでした。



9月28日

日頃から交流の有る勝山市南部中学校の学校祭にお招きいただきました。特に校内合唱コンクールはどのクラスも素晴らしいハーモニーで感動させていただきました。今後ともよろしくおつき合い下さいますようお願いいたします。

10月1日

重度授産施設に西初江さんが入所されました。

10月5日

共に歩もう愛の広場に参加しました。澄みきった青空の下、六呂師高原にてハイキングをしました。

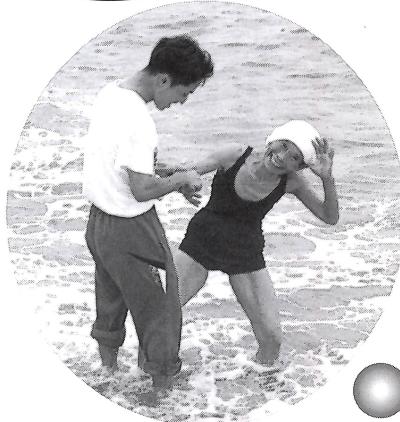
10月8日

10月誕生会を開催しました。福井県警察音楽隊の皆さんによる演奏会がありました。三度目の訪問になられますがないつも違った趣向で私たちを楽しませいただいております。本当にありがとうございました。私たちが音楽隊の皆さんのご厚情に少しでも報いることのできるよう日頃から交通マナーに気をつけながら安全運転に努めましょう。



10月29日

ベルでショッピングを福井市社会福祉協議会の介助ボランティアのご協力を受け、楽しく買物が出来ました。





的に必要とする水分の量は、年齢、運動量、気温などに依って異なりますが1日あたり2.0～2.5リットル（牛乳瓶10～13杯）程度で有ります。そして体重の1.5%～2%（牛乳瓶3～4杯程度）の水分が失われると、喉の渴きを感じる。また、大量の汗をかくと、疲れを感じ、我々の体は巧妙なコントロール系統に依って水分のバランスを保っていますが、喉渴きを感じさせ水を飲むようになる。特に小さい子供が熱を出した時には、脱水症状に成り易いので早めに水分の補給を考えるべきです。また、私達は寝ている間にも呼吸と発汗に依って約0.9リットルの水がなくなります。昔から朝起きた時に、コップ一杯の水を飲むと体に良いと云われているのは、寝ている間に失われた水分の補給の一部となるからです。また、朝一杯の水は血液の粘稠度を薄め脳血栓などの脳血管障害を予防する効果もあります。

水と老化防止 水を飲むことは、老化防止の一助と成ることは医学的に実証されています。それは水を飲むことに依って、新陳代謝が良くなり発汗作用を促し、尿の出を盛んにし、体全てのサイクル（循環）を活発にします。そうして体内で悪影響を及ぼす老廃物や毒素などを体外に排泄して病気にかかりにくくします。また、食べた物が不完全燃焼しますと血液の中性脂肪（血中脂肪）となって、血管や心臓などにこびりついて血管病や心臓病を引き起こし、そして肥満にも成るわけです。ところが水を飲むことに依って、血液の粘稠度が薄められ、また体の新陳代謝が盛んに成り、食べた物が完全燃焼します。それで肥満にならず、老化防止にもなるわけです。

老化 人間の体は25才以後は老化に向かって一目散であります。それを止めるのは肉体的、精神的な適した運動、規則正しい生活、バランスの良い食事を摂ることです。お年寄りは何事にも挑戦する気持ち、積極的に取り組む姿勢が老化を防止し、若返りに役立ちます。

日本は世界中で最も安全で、おいしい飲料水を供給している国であります。水道水でも一晩汲み置きして、その水を11～16位に冷やしておけば、丁度井戸水のような味になり、市販のミネラルウォーターに負けない、おいしい水を飲むことが出来ます。おいしい水を飲むためには、自然を大切にして、水源となる川や湖を汚さないよう心掛けることが肝要です。

水は「生命の源」と言われているように成人の体重の60%～70%は水分で構成されています。特に子供の時は体の水分の割合が高く七五%が水分である。それで子供の肌はみずみずしい。その代り水の欠乏、脱水症状に成り易い。歳をとると共に、体内の水分率は低下するので、肌の潤いも失われるわけです。

一般に成人には約40リットル（牛乳瓶に換算して約200杯）の水を体内に保持しており、体重の一五%～二〇%（六リットル～ハリットル）の水分が失われると生命に危険があると云われています。成人が普通、生理

早く3号を！と気になりながら、夏が過ぎ、秋が過ぎて、ようやく3号を発行することが出来、ホッとしています。
春に、長山ボランティアの方に植えて頂いて私たちの目をなごませてくれたカンナも、十一月には、カンナいも（球根）を掘り、来年のために、冬越しの準備をしていきます。きっと来年もきれいな花を咲かせてくれることでしょう。
さて、冬まつりも間近です。入所者、職員共々、準備のために熱氣ムンムンで寒い冬も吹っ飛ぶくらい頑張っています。
今年の冬まつりは、すごく楽しいことがいっぱいありますよ！皆様、ぜひワークの冬まつりに顔をのぞかせて下さい。お待ちしております。
これから、寒い冬です。皆様、風邪などひかないように気をつけましょうね。

編集後記

